

○平井 みどり¹

¹神戸大病院薬

医療現場では看護師の殆どと薬剤師の多数が女性であり、医師も女性が占める割合が急激に増加している。女性の活躍なしによい医療の実践は考えられない。そこで問題になるのが、子育て・産後の職場復帰と介護の問題である。産休・育休・介護休暇の制度は存在しているが、そこを埋める人材を探すのは結構大変であり、復帰したときに仕事のブランクをどうするか、という問題も存在する。我々の病院では院内保育所を整備し、十分ではないものの病児保育を行っている。また産休・育休中に孤立しがちなママを応援し、職場復帰をスムーズにするためのシステムを整備し、専門の部署とコーディネータを置いて、休職中の支援を行っている。更に早い時期からの意識付けを目的とした男女共同参画の学生教育も実施している。このように、「育児支援」「職場復帰・再就職支援」については取り組んではいるものの、「女性役員・管理職の増加」については、看護師以外では目覚ましく進んでいるとはいえない。医療職を選ぶ女性は臨床志向が強く、管理職になることが自由の妨げになる、という感覚を持つ者も多い。男女共同参画は、女性が男性と同じ事をするのが目的ではない。現代社会を動かしている男性価値観とは異なる価値観を認め、すべての人が幸せになるためにはどうすべきか、その考え方と方策を共有することを前提に、特に若い人が自由に考え行動し、新たなチャレンジを行って新しい価値観を創造できる環境を整えることが、真の意味での男女共同参画だと考えている。